

広島大学

【学習支援活動】

広島大学・氏間和仁研究室では、広島大学大学院人間社会科学研究科附属特別支援教育実践センターにおいて、視覚障害、発達障害、知的障害、肢体不自由やその他の原因で、一般的な学び方、学ぶための道具、教え方では学ぶことが難しい人々（乳幼児から大人まで）を対象に学習支援活動を行っています。

氏間研究室の学習支援活動は、放課後に行う**放課後教室**、土日に行く**さんさん教室**、出張して行く**出張教室**、オンラインで行う**オンライン教室**があります。多くの学生、大学院生も、サポート役や指導者役として参画して**個別最適化した学び**について、共に考え、腕を磨いています。

毎年、学生が入れ替わることが、教育機関で実践活動を運営する上で最も頭を悩ませるところです。そのため指導時は上級生と下級生をペアにする、事前・事後の説明を先輩から後輩へ行う時間を確保する、お昼を一緒に食べる！など、指導上のポイントや氏間研究室の伝統が受け継がれるよう工夫しています。

その特色は、一人ひとりの学ぶ上での困難を評価した上で、**個別最適化した学び方**、**学ぶための道具**、**教え方**を提案することです。その時、**デジタル・テクノロジー**はとても強力なツールになります。全ての人の学ぶ機会を守るために、テクノロジーの有効活用を、**教育という手段**で実現するためのお手伝いをしています。

氏間研究室の学習支援活動の事例紹介ビデオ



テクノロジーと人を結ぶのは**教育**だ！

個別最適化された学び方とは！

文字を眼で見て内容を理解することが難しい場合、大人が読み上げる方法もありますが、主体的に学ぶ環境とはいえません。タブレットにPDFで取り込み、そこに録音しておく、読みたいときに、何度でも、自分の意思に基づいて学ぶことができます。これは主体的に学ぶ環境と言えます。氏間研究室では、個の特性に着目し、より適した学び方を提案し、その学び方を指導しています。

個別最適化された道具とは！

ノートに書き取ることが難しいと授業の記録が残りません。板書を撮影し、それ以外の部分をキーボードで入力すると、授業の記録が残せるようになります。しかし、その方法や学校への導入の仕方は様々です。氏間研究室では、個の特性、学校の事情を勘案し個に応じた道具を提案し、その使い方を指導するとともに、学校とも連携して教室への導入を支援しています。

個別最適化された教え方とは！

漢字を学ぶとき、黒板などに書いて、それを真似て書いて、さらに10回ほどノートに書くことで漢字を覚えられる人がほとんどです。一方で、そういった教え方では定着しない人がいます。そんなとき、例えば「十日十と月で、朝」といった具合に部品を唱えて教えると覚えられる場合があります。氏間研究室では、個の特性に着目し、より適した教え方を提案します。

デジタル・テクノロジーの積極的活用！

上記の3つのことを勧める際、アナログの道具が有効なこともありますが、デジタル・テクノロジーが有効なことも多いです。しかし、そのデジタル・テクノロジーの何を使えば良いのか、どうつかえばよいのか、学校で使うためにはどのように進めれば良いのか、様々な課題が横たわっています。氏間研究室では、そんな課題の解決のため学習支援を行っています。昨年度は延350ケース以上の支援を実施しました。

氏間和仁研究室